

# 平成20年度 病害虫発生予察注意報 第2号

平成20年5月30日  
発表：福島県病害虫防除所

- 1 対象作物：モモ
- 2 病害虫：モモせん孔細菌病
- 3 対象地域：中通り北部
- 4 発生量：多い

## 予報の根拠

- (1) 前年秋期の中通り北部における新梢葉での発生は、平年（平成11～18年平均）より多く（図1）越冬菌密度が高かったと推定される。
- (2) 5月下旬の春型枝病斑（スプリングキャンカー）の発生は、伊達地域でのみ認められ、発生ほ場割合は前年よりやや低いものの平年（平成11～19年平均）より高く、発病枝率の高いほ場が認められた（図2）。新梢葉での発生は、一部のほ場で認められた。
- (3) 向こう1か月の気象予報では、降水量が平年並か多い確率が高く、感染に好適な気象条件であると見込まれる。

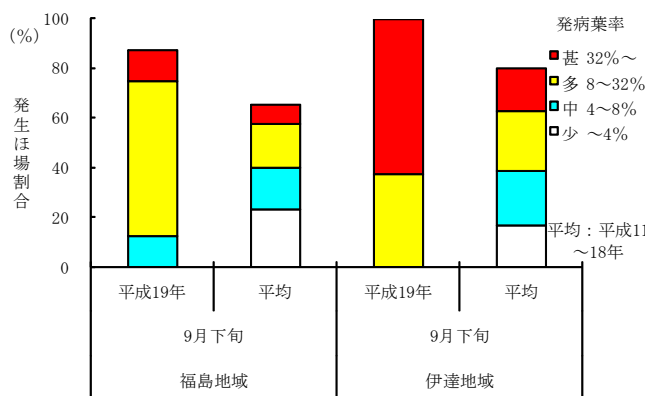


図1 前年秋期（9月）の新梢葉での発生状況

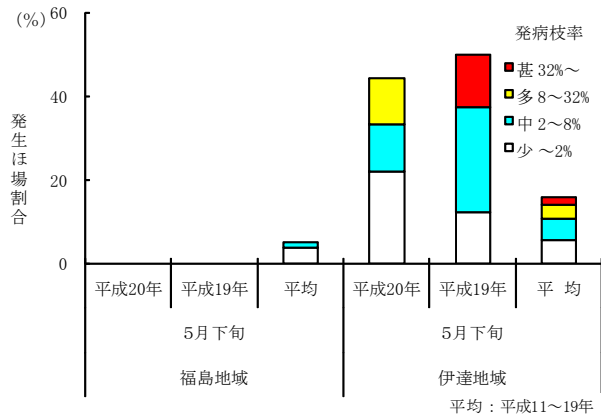


図2 春型枝病斑の発生状況(平成20年5月)

## 防除対策

### (1) 耕種的防除

春型枝病斑は、葉や果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除して適切に処分する。  
葉や果実における発生部位は、できるだけ早めにせん除する。  
果実被害が多い場合には、6月15日ころまでに袋掛けする。

### (2) 薬剤防除

下記の表からいずれかの薬剤を選択して散布する。発生が多い場合には、亜鉛ボルドー液、アグレプト水和剤、バリダシン液剤5、マイコシールドのいずれかをを使用する。なお、アグレプト水和剤、亜鉛ボルドー液は収穫前日数がそれぞれ60日、30日なので、早生種には使用しない。

ただし、アグレプト水和剤、バリダシン液剤5、マイコシールドは、耐性菌が出現しやすいので注意する。

表 モモせん孔細菌病の主な防除薬剤（平成20年5月14日現在）

薬剤名	農業の成分名	濃度	使用期間 (収穫前日数)	本剤の 使用回数
亜鉛ボルドー液	硫酸亜鉛・生石灰	6-6式	30	3
アグレプト水和剤	ストレプトマイシン	1,000倍	60	2
バリダシン液剤5	バリダマイシン	500倍	7	4
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	2,000倍	21	5
デレンフロアブル	ジチアノン	600倍	7	4
ダイボルトフロアブル	ジラム・チウラム	500倍	14	5
パルノックスフロアブル	ジラム・チウラム	500倍	14	5

※ 薬剤を選択する際には、選択した薬剤の使用回数と含有する有効成分の総使用回数(他剤を含む)に十分注意する。

※ 薬剤を選択する際には、収穫前日数に十分注意する。

※ 濃度のアンダーラインは、平成20年版防除指針で採用している濃度を示し、登録内容の希釈倍数に幅がある。

● 情報内容への質問や要望は福島県農業総合センター安全農業推進部 発生予察課（病害虫防除所）までご連絡ください。 TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727